

かみくげ 恐竜の里新聞

令和4年7月20日 発行：上久下恐竜の里づくり部会

第140号
上久下地域
自治協議会
0795-78-0001

上久下村宮上滝発電所 100周年記念式典

旧上久下村宮上滝発電所が、大正11年に竣工し今年6月に100周年を迎えることを記念して、上久下地域自治協議会は、6月26日に発電所記念館横の展望広場で節目の式典を開催しました。梅雨の時期でもあり天候を心配していましたが、当日は好天の下で約100人の地域住民が参集して賑やかな式典となりました。来場した人には記念品と、「発電所100年のあゆみ」と題した冊子をプレゼント。その冊子を使って、上久下老人クラブ連絡会の柳川瀬義輝会長から、発電所建設までの苦労や電灯が点いた時の感動などを参加者に伝えてもらいました。来賓に林時彦丹波市長、片山則昭教育長、八尾滋樹校長をお招きして、それぞれ祝辞を頂きました。また、下滝の安井さんと柏木さんに落成の祝い歌を披露してもらい、式典の締めとして皆で風船飛ばしを行いました。自治協議会野垣克己会長の挨拶がありましたように、100年前の村民が知恵を出し合い、莫大な資金（現在の貨幣価値で約11億円）を捻出して水力発電所を建設した団結力を今一度思い返して、上久下の地域づくりに皆の力を結集して行きたいと思われました。冊子の原稿を作って頂いた村上茂さん、当日の会場準備・片付けでお世話になった自治会長や元気村かみくげの皆様のお陰で、盛大に式典を開催することができました。改めて感謝申し上げます。尚、「発電所100年のあゆみ」冊子は、発電所記念館と地域づくりセンターに置

いています。ご希望の方はどちらかへお越し下さい。《今回の記念式典は、丹波県民局「交流促進パワーアップ事業」の助成を受けて実施しました》

老人クラブ連絡会柳川瀬義輝



林丹波市長



片山教育長



上久下小学校八尾校長



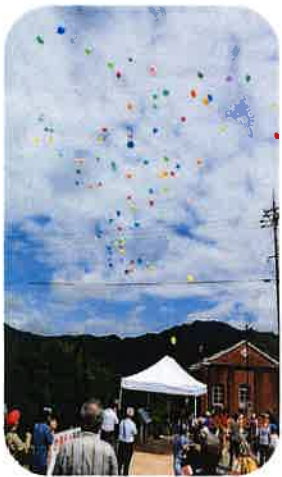
下滝アカベラグループ



100周年を祝う横断幕



野垣会長の挨拶



100個以上の風船が青空に舞いました

1年生にクールタオル進呈



クールタオルを手にして喜ぶ5人

本格的に暑くなる前の6月7日に、上久下地域自治協議会から上久下小学校1年生5人にクールタオルが進呈されました。1年生は声を揃えて「ありがとうございます」と感謝の気持ちを表してくれました。暑さに負けず通学して、勉強や遊びを楽しんで下さい。

ボランティア活動の紹介



いなり寿司を作るボランティアの人達

上久下ボランティアグループが、6月13日に地域づくりセンター調理室で友愛弁当作りに取り組みました。新型コロナウイルスの感染防止で調理時間を短くする工夫をして、いなり寿司と柏餅のセットを地域内の独居高齢者に宅配しました。訪問時には見守りも一緒に実施してもらっています。

地域づくりセンターの草刈り・剪定作業



玄園前も綺麗になりました

例年お世話になっている地域づくりセンターの草刈り・剪定作業が、7月3日に行われました。各自治会から4人出役してもらって、約1時間で広場の雑草や伸びた植木などがスッキリと綺麗になりました。当日は小雨の間に作業ができましたが、そのあと記録的な集中豪雨に見舞われました。自治会役員さん達は災害が広がらないようご苦労されたことと思います。大変な1日でした。お疲れさまでした。

上久下の将来の姿を まとめ上げる

報道でご承知の通り、昨年の青垣地域に続き山南地域が今年から過疎地域に指定されました。市が昨年青垣の過疎地域持続的発展計画を作成したものに、山南の特色を加えて国に修正提出することになります。これを機会に上久下では2月12日に各団体の代表が集まってもらい、上久下の将来の姿について意見を出し合い、各自の思うところを紙ベースでも提出してもらいました。意見集約したものをたたき台に、再度6月17日に会議を開催して最終案をまとめ上げました。各地域や山南全体で出た意見・要望が、どのように計画書に反映されるか注視していきたいと思っています。新聞裏面に、地域の特徴を盛り込んだ「上久下の将来の姿」を掲載しています。ぜひ一読下さい。

8月の予定

- ◆8月6日(土) 地域づくりセンター清掃 (下滝) 午前9時から
- ◆8月6日(土)・7日(日) 檜皮茸ワークショップ 午前10時から
- ◆8月12日(金) 恐竜の里づくり部会 午後7時30分から
- ◆8月18日(木) 自治会長会 午後7時30分から
- ◆8月27日(土) 上久下小学校整備事業 午前7時30分から
- ◆8月27日(土) 地域づくりセンター清掃 (畑内・北太田) 午前9時から
- ◆8月23日(火) 恐竜時計台のカフェ 午前10時から

上久下地域の将来の姿 (グランビズサイン)

地域の現状

- ・働く場所が少なく若者たちの地元離れが多い
- ・人口の減少、若者の都市への流出、超高齢化の進行で、すでに限界集落が発生している。
- ・高齢化率、丹波市で33.5% 上久下地区で43.7% 一部の自治会で52.1%
- ・農業の後継者不足、農地の荒廃が進み、農地の有効活用が困難である。
- ・恐竜化石発見から15年、1億年前の夢とロマンの発見の地である。又第一発見者が地元在住者であり、恐竜化石に関する幅広い知識を有している。
- ・楕皮葺きの巨匠が多く、長年にわたり楕皮葺きを生活の生業にしてきた。ユネスコ無形文化財遺産に登録されている。
- ・旧上久下村営上滝発電所跡は大正11年に竣工した村民自らの力で建設した発電所で、平成20年には国登録有形文化財になっており、今年は100年目の記念すべき年である。
- ・空き家がどんどん増えてきた。地域にあったお店も次々と消えていき、地域内の商業施設がほとんどなくなった。そんな中、企業組合「元氣村かみくげ」の設立から10年余り、コミュニティビジネスの芽がようやく芽生えてきた。
- ・婦人会や老人会等の団体組織が解体していく一方で、「かみくげ宿」のような比較的若い世代の集団が地域のため活動をはじめている。

課題と問題点

- ・就職先が少ない。事業所、工場等が少ないため職業選択の幅が限られている。産業振興として企業誘致や雇用対策が必要である。
- ・人口減少が進まない中、I・Uターン者の受け入れ体制が確立されていない。体験型イベントを通して交流人口を増やす取り組みが重要である。
- ・上久下地域は8集落で構成されるが高齢化率が進み、すでに40%を超えている。集落単位では50%を超えており限界集落になっていく。さらに進めば集落崩壊につながる危機に直面している。
- ・商業施設が少なく、買い物等は地域外へいかねなければならない。
- ・自然や文化、風土等の地域の上いところが十分に発信されていない。
- ・空き家が放置され、住民の不安が増大している。シェアハウスの推進や空き家BANKの機能が不十分だ。
- ・特に子育て世代は利便性を求めて過疎地から柏原、水上方面に転移が進行している。これが学校の統廃合に拍車をかける。
- ・恐竜化石発見から15年余りとなるが地域住民の事業に対する能動的な参加が必要である。化石発掘体験などは地域外からの参加者は多いが地元の参加者がいまひとつである。化石発掘体験の指導者を育成する必要がある。また、県の発掘調査が平成30年度を最後に実施されていない今後の計画もない。
- ・楕皮葺きは千年以上の歴史があり、地域には巨匠が多く伝統産業を守り続けてきた。若い技術者が育ちつつあるが地域の多くの住民は伝統産業であるという感覚が少ない。
- ・旧上久下発電所跡は国登録有形文化財に指定されたが、地域住民としては文化財としての誇りや100年前に地域の力を結集して造り上げた発電所であるという事実を知る人が少なくなっている。
- ・農業の魅力が低下し、農地の荒廃が進み、農地の有効活用ができず、農村の原風景が失われつつある。
- ・企業組合「元氣村かみくげ」は発足以来10年余りになるがコミュニティビジネスとしての継続性が難しい状況で、今後は土日祝日開店から平日開店の可能性を探る必要がある。若い人が働ける雇用条件へと改善が必要である。
- ・旧来から地域の中心であった婦人会や老人会が解体し地域活動の継続性が崩れる。一方で比較的に若い世代の団体「かみくげ宿」の活動がめばえてきた。地域の支援が必要である。

課題に対する対策(アクション)

- ・過疎地域特設的發展計画によりハード・ソフト両面の事業を進める。
- ・市の中心部へのアクセスを充実させ、医療や福祉の向上と生活の安定を図るため道路整備の充実を図る。特に、県道(市道又は林道でも可)の下滝～柏原橋の新設要望を急ぐ。
- ・小学校通学路の安全と県道青田・太田間の災害迂回路として、市道下滝～北太田間4ヶ所の狭小部分の拡幅工事を早急に要請する。
- ・地域の賑わいゾーンとして「元氣村かみくげ」を中心にした道の駅(恐竜の駅)の建設を誘致するとともに、遊興施設としてグランビズマルシェを建設するなどして交流人口を増大させる。
- ・恐竜化石発見地として千載一遇の地域の宝として磨きかけるとともに、発信力を高め集客力アップにつなげる。化石発掘調査の継続。地域での発掘調査と合わせて県の発掘調査の再開を要望。
- ・丹波音の里公園の遊具の充実や、遊歩道から発見現場周辺一帯に恐竜模型の配置を要望するなど、「恐竜の駅」の下準備をして、更に賑わいを創造する。
- ・恐竜化石(1億年前の事実)、楕皮葺き技術(千年以上前から継続)、上久下村営発電所国登録有形文化財(100年前の地域力)の3つを融合したイベント事業を企画し、地域の活性化を図る。
- ・持続可能な地域課題を解決するため、地域野菜を使ったスノープレッシャーや地域野菜と肉を使ったパスタ、恐竜焼き等地域資源を生かした6次産業化の推進とコミュニティビジネスの推進を図る。
- ・元氣村かみくげを拠点として駐車場、案内、食の充実、田舎ならではの土産の充実、河川の清流等自然とたわむれる人をターゲットにした交流人口の増加に取り組む。
- ・元氣村の訪問客は子供連れが多くなってきた(客層が変化してきた)化石発掘体験と合わせて子どもたちのよるこぶじオトナ等の推進を図る。
- ・空き家BANKの創設や市営住宅団地の新設で、若者が住みやすい住環境整備を要望する。
- ・篠山川の清流を取り戻すため川代ダム必要性について検証する。不要であればダムは放流し鮎の住む河川に取り戻す。釣り具のメーカー(丹波市のリーディングカンパニー)が存在するのに川が汚れて魚が棲めない。川釣りや川遊びを観光資源として活用する。

将来の地域の姿

<古代のロマンと未来に夢あふれる上久下>

